

貴重図書展示「貴重書名品展」

期間：2024年4月2日（火）～6月28日（金）

場所：中百舌鳥図書館1階貴重図書展示ケース

あやね竹^{だけ} 刊三冊



江戸の菱川師宣に匹敵する浮世絵の先駆者である上方の浮世絵師・大森善清による、中国古典を題材にとった「絵本」。

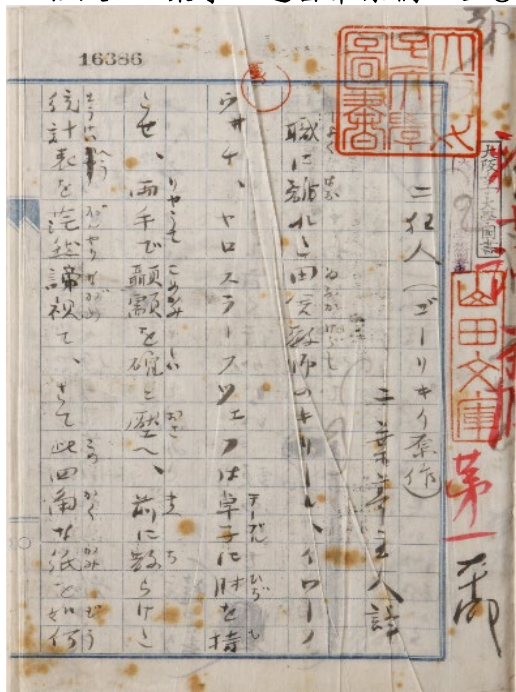
そもそも本書は現存するものが極めて少なく、それだけでも貴重であるが、大阪府立大学本は現存唯一の完本であり、大森善清の画業を知るうえでの基準作となる。

はちかづき 写三冊



室町時代物語、奈良絵本。河内国の伝承にもとづいた継子物語。御伽草子二十三篇の一つ。版本も数多い。本書には十四枚の奈良絵が収められている。

にきょうじん 二葉亭四迷自筆原稿 五〇枚



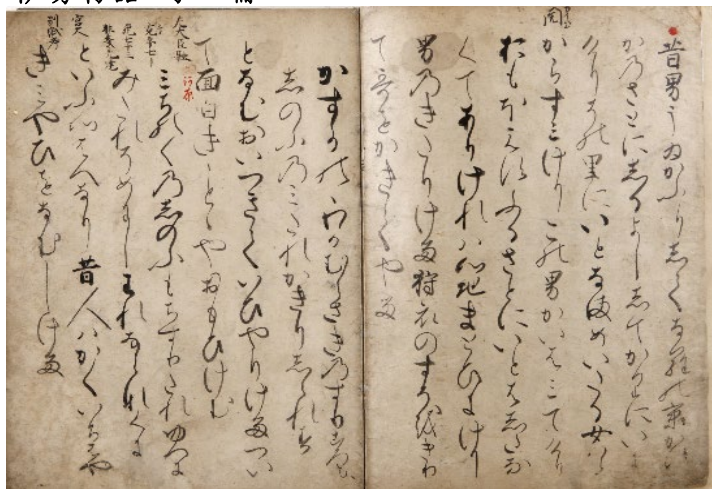
『新小説』明治四十年（一九〇七）三月号に掲載された、ゴーリキ原作、四迷訳『二狂人』の前半部分の原稿である。用紙は松屋製四〇〇字詰め、署名は「二葉亭主人」とある。こなれた訳文をめざす推敲のあとが随所に見られる。

どうじょうじえんぎえまき
道成寺縁起絵巻 写二巻



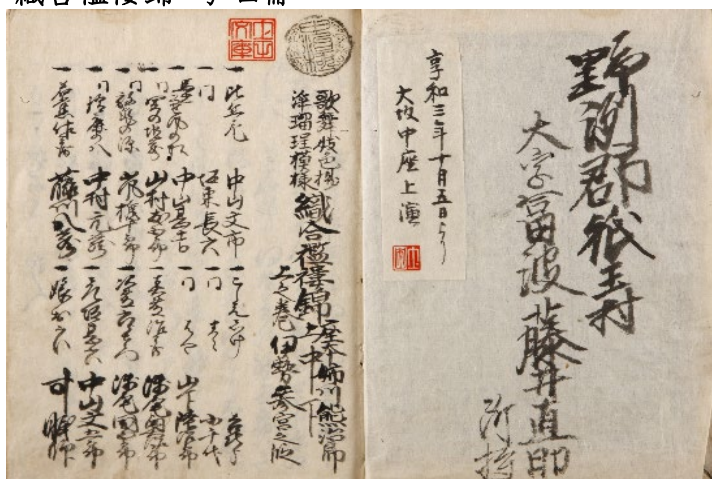
道成寺所蔵本を江戸時代に入って土佐派の画家が忠実に模写したもの。模本であるがかなりの出来栄で、あるいは『考古画譜』が言う桑名松平家の模本であるかも知れない。

いせものがたり
伊勢物語 写一冊



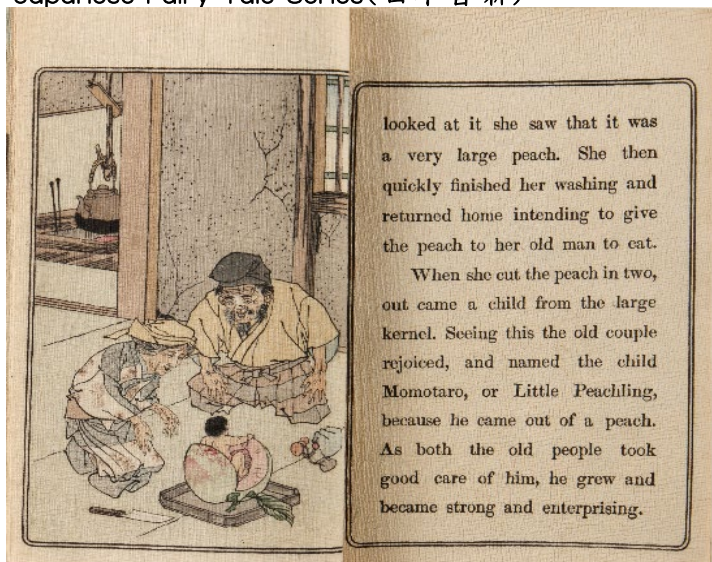
奥に兼好法師の筆跡かとする烏丸光広の識語がある。兼好の真跡ではないが、同時代（一四世紀前半）の書写とみてよい。本文は定家本と少異がある程度だが、定家一門と対立する清輔流の書き入れがあるのが注目される。

おりあわせつづれのにしき
織合襪錦 写四冊



明治元年（一七四六）初演。浄瑠璃『敵討襪錦』を歌舞伎化した作。本書は、享和三年（一八〇三）に大坂中の芝居で上演されたときの台帳。役人替名を完備している。

Japanese Fairy Tale Series(日本昔噺)



日本昔噺の英訳。縮緬紙（縮緬のように細かく皺を寄せた和紙）に多色刷。長谷川武次郎が明治十八年（一八八五）から発行しはじめたシリーズで、一話一冊、二十冊揃。

しんぱんえあわせげんじすごろく
 新版画合源氏双六 一枚



江戸時代末期に発行されたさまざまな種類の双六の一つで、柳亭種彦作『修紫田舎源氏』の挿絵を描いた歌川豊国の画。

一卷を一コマとして主要人物を描く。振り出しは『修紫』の作中作者「質紫の今式部」が石屋の二階で『田舎源氏』を書き綴る姿、上がりは正月風景。収納用の袋が添

すごろく
 ウイルソン氏リード双伍呂久 一枚
 整版多色刷 明治十八年(1885)
 岡本光沢 岡本信関・松斎吟光画

